

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

<	<	〈理事会報告 (2021 年 3 月 7 日)〉	>	>
<	<	■ 審議事項	>	>
<	<	Ⅰ 各種委員会の活動について	>	>
<	<	Ⅱ 第 32 回大会 (琉球大学 web 大会) について	>	>
<	<	Ⅲ 研究奨励賞委員会	>	>
<	<	■ 報告事項	>	>
<	<	Ⅳ 事務局報告	>	>
<	<	Ⅴ その他	>	>
<	<	〈第 31 回琉球大学 web 大会 (2020 年 6 月 28 日) の報告〉	>	>
<	<	〈「日本カリキュラム学会研究奨励賞」候補者の推薦について〉	>	>
<	<	〈事務局からのお知らせ〉	>	>

理事会報告 (2021 年 3 月 7 日)

定例理事会が 3 月 7 日 (日) 10 時から 13 時まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催されました。事務局 3 名を含む 31 名 (うち理事 28 名) の参加がありました。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、『カリキュラム研究』第 30 号の編集に係る進捗状況等が報告された。

まず、投稿論文の査読について、一部遅れが出たものの、おおむね予定通りに進められていることが報告された。あわせて、再査読に関する経過と、再査読の結果が報告された。具体的には、19 本の投稿論文があり、2 本が会費未納、1 本が締切り徒過のため不受理となったこと、16 本 (研究論文 13 本、実践研究論文 3 本) が受理されたこと、ならびに、厳正かつ慎重な審査の結果、

最終的に研究論文4本が掲載されることとなったことが報告された。

次に、『カリキュラム研究』第30号の原稿執筆について、一部の原稿の提出が遅れていることが報告された。

図書紹介の紹介図書の決定及び執筆依頼については、まず、紹介図書について3名の理事から6編の推薦があったこと、ならびに、メール審議を経て紹介図書及び執筆者が決定され、原稿も予定通りに提出されたことが報告された。あわせて、紹介図書は、以下の通りであることが報告された。

- ① 石井英真『未来の学校ーポストコロナの公教育デザイン』日本標準、2020年。【執筆者：澤田稔理事】
- ② 羽山裕子『アメリカの学習障害児教育:学校教育における支援提供のあり方を模索する』京都大学学術出版会、2020年。【執筆者：森久佳理事】
- ③ 金馬国晴編著『カリキュラム・マネジメントと教育課程』学文社、2019年。【執筆者：中野和光理事】
- ④ 細尾萌子他編著『フランスのバカロレアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成』ミネルヴァ書房、2020年。【執筆者：工藤文三理事】
- ⑤ マイケル・フラン他著、松下佳代監訳『教育のディープラーニング』明石書店、2020年。【執筆者：吉富芳正会員】

続いて、2020年12月20日に、Zoomにより第2回紀要編集委員会が開催されたこと、ならびに、そこでの審議事項の内容が報告された。

具体的には、まず、図書紹介の対象図書の著者は会員でなければならないかという点について、『カリキュラム研究』が会員の研究活動を支援するものであることに鑑みれば、会員の図書が中心となるものとするが、カリキュラム研究上重要な図書があれば、会員の著書に限る必要はないのではないかとの意見集約となったことが報告された。次に、〔投稿要領〕及び〔投稿に当たっての注意〕の修正について、次のような改正を行うこととし、必要な修正を加えることになったことが報告された。

- ① 手書きを認めない。
- ② PDFファイルの提出を求める。
- ③ 字数制限を超えることについて注意喚起する文章を改善する。
- ④ 年会費の納入についての説明をよりていねいにする。

①の「手書きを認めない」という点について審議が行われ、その結果、提案の通り、「手書きを認めない」というかたちに修正することとなった。②～④についても、承認された。

あわせて、修正した「〔投稿要領〕及び〔投稿に当たっての注意〕」の文案が提案された。文案について審議を行った結果、提案された文案を一部修正のうえで修正を行うこととなった。

続いて、今回の審査を通して明らかになった課題として、以下の内容が報告された。

- ① 投稿者に改善を求めたいこと
 - 先行研究の参照の仕方が不完全。
 - 〔投稿にあたっての注意〕第6項、重複投稿の恐れ。
 - 引用文献を著作集からとられているが、初出文献に当たるべきである。
 - 海外の研究者からの聞き取りにおいて、公開することの同意を得ているか。

- 実践を研究対象にすることについて、学校、教員、児童生徒への「説明と同意」の手続きが適切に行われたのか。
- 外国語を使用しての研究に不慣れと推測せざるを得ないため、記述全体について信頼性に欠ける。

② 論文審査の基準について

- 論理展開など学術論文としての完成度に課題があるものの、それぞれの分析の興味深さ、資料的価値が高い論文をどのように取り扱うか。
- 自他の実践を取り上げて執筆されている論文などに関して、個人情報保護や研究倫理に関する手続きが不十分であると考えられるものをどのように取り扱うか。

これらの事項について行った審議の内容をふまえて、今後、紀要編集委員会内で引き続き議論を行い、〔投稿要領〕及び〔投稿に当たっての注意〕の修正案にできるだけ反映させるかたちで進めることとなった。

その後、〔投稿要領〕及び〔投稿に当たっての注意〕の修正に関する今後の手続きについて審議を行い、修正作業については紀要編集委員会で進めること、総会に諮るかどうかも含めて承認の手続きについては事務局を中心に検討を行うこととなった。

また、作業状況として、現在、すべての原稿が城島印刷に入稿され、印刷工程に入っていることが報告された。

2. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき、第32回大会の課題研究Ⅳのタイトルを「民主主義と国家の現状と課題－市民性教育の在り方を考える－」とすること、ならびにその趣旨、発表者、指定討論者、司会・コーディネーターに関する提案があった。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

3. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、第32回大会の課題研究Ⅰのタイトルを「全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに及ぼす影響とその改善を考える－沖縄県の事例を参考に－」とすること、および、課題研究Ⅲのタイトルを「教育内容論としてのカリキュラム研究再考－資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ－」とすることが提案されるとともに、それぞれの趣旨、発表者、司会、コーディネーター、指定討論者に関する提案があった。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

続いて、上地委員長より、資料に基づき、2021年春の「研究集会」についての報告がなされた。あわせて、草原委員より、現時点で85名の申し込みがあることが報告された。

4. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、「秋のセミナー2021(案)」「若手育成」の新企画(案)」「2022年、2023年大会の課題研究(案)」「第32回大会の課題研究」について、報告と提案がなされた。

まず、「秋のセミナー2021(案)」については、11月にウェビナー形式で開催予定であることが報告された。また、その内容について、「カリキュラムの条件整備の実践事例(リーダーシップ／

リスク管理／教師の学び、研修など)「カリキュラム・オーバーロード(過負荷)への対応事例(時数管理、タイム・マネジメント／ICTの利活用／働き方改革との関連など)」の2つの案が提案された。今後、理事から意見を募りながら決定することとなった。

あわせて、「秋のセミナー」と「研究集会」との差異化を図ることの必要性について提案がなされ、「秋のセミナー」は学会員の研究成果を発信することに重点が置かれており、学会としての社会貢献の側面が強いこと、「研究集会」は時宜を得たテーマについて学会員が学び合えるような内容にすることに重点が置かれていることが確認された。今後、この違いを念頭に置きつつ、担当委員会を中心にテーマ等の検討を行うこととなった。

「若手育成」の新企画(案)について、院生・研究生の会員を対象に、30周年記念誌を用いた読書会(ZOOMを用いたオンライン・ミーティングの形式で、年に3～4回程度)を開催するという案が提案され、提案の通りに進めることとなった。

「2022年、2023年大会の課題研究(案)」については、2021年度と同様の方向で進めることが検討されていることが報告された。

「第32回大会の課題研究」について、課題研究Ⅱのタイトルを「カリキュラムの『不易と流行』を語るⅡ～学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法～(仮)」とすること、ならびにその趣旨、登壇者、コーディネーター、司会、記録に関する提案があった。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

II 第32回大会(琉球大学web大会)について

上地第32回大会実行委員会委員長より、第32回琉球大学web大会の案内文「日本カリキュラム学会 第32回琉球大学web大会のご案内」の案が提案された。

自由研究発表の時間について、従来通りに、個人研究発表を「発表20分 質疑討議5分(計25分)」、共同研究発表を「発表40分 質疑討議10分(計50分)」とするか、共同研究発表の時間を短縮するかという点について、意見交換がなされた。審議の結果、第32回大会については従来通りを行うこと、および、第32回大会の様子もふまえながら審議を継続することとなった。

発表資格に関わる年会費の納入締切について、例年、自由研究発表者として申し込みを行っているにもかかわらず年会費を納入しない会員が見られることが報告され、その対応について審議が行われた。審議の結果、「自由研究発表申込」のウェブ入力締め切りである4月20日(火)の時点で申込者の会費納入状況を確認し、未納の会員には国際文献社より督促をしてもらうとともに、発表要旨提出締切の5月17日(月)の1週間後である5月24日(月)を年会費の納入締切とすることとなった。

参加費についてはコムラの口座に振り込むことになるため、振込用紙に「日本カリキュラム学会」の名称が記載されないかたちになることが報告された。これに係る対応について審議した結果、「日本カリキュラム学会 第32回琉球大学web大会のご案内」に、参加費の振込先がコムラとなることを明記するとともに、コムラと相談のうえで、可能であればコムラの口座情報も記載しておくかたちで進めることとなった。

その他の内容については、一部文言を加筆修正したうえで、提案の通りに進めることとなった。

その後、後掲の研究奨励賞委員会に関する議論(「III 研究奨励賞委員会」を参照)を受けて、

例年であれば大会 1 日目の前日に開催していた定例理事会を 1 週間程度早めて開催すること、また、必要な場合には、大会 1 日目の前日にも臨時理事会を開催することとなったことに伴い、大会プログラムからは、理事会の日程に関する記載を削除することとなった。

III 研究奨励賞委員会

小柳研究奨励賞審査委員長より、資料に基づき、学会賞（優秀発表賞）の新設と運用に関する提案があった。

「日本カリキュラム学会 学会賞に関する規程」と「日本カリキュラム学会 学会賞細則」について、前回の理事会での審議を受けて作成した一部修正案が示された。

学会賞（優秀発表賞）を新たに設定することの目的や審査手続きの方法（口頭発表を審査することの難しさ、発表内容が既発表でないことの確認の必要性）などについて、他学会での動向などもふまえながら理事会でさらに丁寧かつ慎重に検討し、議論を重ねながら進める必要があるということが提案され、意見交換がなされた。審議の結果、小柳委員長と安藤副委員長で案を作成したものを研究奨励賞委員会でさらに検討し、それを次回の定例理事会において審議したうえで総会に諮るという流れで進めることとなった。

■報告事項

IV 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況報告」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

V その他

次回の定例理事会について、以下の日程で開催する予定であることが確認された。

日時：第 32 回琉球大学 web 大会（2021 年 6 月 26 日（土）・27 日（日））の 1 週間程度前に開催することとし、具体的な日時については改めて日程調整のうえで決定する。

※ 日程調整の結果、2021 年 6 月 18 日（金）16 時 30 分から 18 時 30 分で開催することとなった。

開催方法：ウェブ会議のかたちで開催

第 31 回琉球大学 web 大会（2020 年 6 月 28 日）の報告

日本カリキュラム学会第 31 回大会は、当初、琉球大学を会場にして 6 月 27 日～28 日の日程で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて現地開催を断念し、シン

ポジウム、課題研究、自主企画セッションを中止して自由研究発表のみをオンライン形式で実施し、名称を「日本カリキュラム学会第31回琉球大学 web 大会」と変更して6月28日に開催した。

自由研究発表については、発表要旨と発表資料を学会ホームページの会員専用ページに掲載することによって発表とみなした。自由研究発表では32件の発表があり、大正新教育、戦後初期の教育、海外のカリキュラム、授業研究、教科・総合（総合的な学習の時間）、職業教育、カリキュラムマネジメント、社会の変化と学校教育というテーマで分科会が設けられた。

また、希望する自由研究発表者には Zoom によるオンラインでの双方向の発表機会が設けられ、自由研究発表32件のうち6件の発表が6月28日に Zoom で実施された。当日は機材のアクシデントなどもなく、Zoom を介して学会参加者と発表者の間で貴重な質疑応答がおこなわれた。

なお、中止となったシンポジウム・課題研究については以下のようなテーマが企画されていた。

- ・公開シンポジウム : 新しい時代を切り拓く平和教育のあり方について
- ・課題研究Ⅰ : 全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに及ぼす影響とその改善を考える—沖縄県の事例を参考に—
- ・課題研究Ⅱ : カリキュラムの「不易と流行」を語るⅡ
—学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法—
- ・課題研究Ⅲ : 教育内容論としてのカリキュラム研究再考
—資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ—
- ・課題研究Ⅳ : 民主主義と国家の現状と課題—市民性教育の在り方を考える—

(琉球大学：上地完治)

「日本カリキュラム学会研究奨励賞」候補者の推薦について

2019年度の規程改正により、研究奨励賞の応募の方法と締切が、「会員の他薦により、この賞に応募する旨、毎年10月31日(必着)までに、所定の推薦書により申し出る(著書ないし論文1部を提出)」となりました。会員のみならずからの推薦を募集しておりますので、是非、応募ください。研究奨励賞についての詳細は、学会HPにて確認できます。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2021年3月1日時点)

■会員総数 731 (一般会員 644、学生会員 79、団体会員 8件)

※連絡先不明者 12名、会員一時資格停止者 30名を含む、2021年度入会者 2名含む。

【内訳】

新規入会者：6名
 退会・強制退会者：0名
 一時停止資格者：30名
 連絡先不明者：12名

2020年度からの新入会者：34（一般：24名、学生：10名）
 2020年4月1日からの新入会者：32名（一般：22名、学生：10名）

■会費納入率（2021年3月1日時点）

2020年度：完納616名 未納83名 計699名 88.1%

2019年度：完納645名 未納22名 計667名 96.7%

※連絡先不明者12名含む、会員一時資格停止者30名除く。

■新規入会者（2020年10月29日～2021年3月1日）6名

	入会年月日	氏名	所属機関名	会員種別	推薦者
1	2020/11/16	坂本 徳雄	所属非公開希望	学生会員	事務局
2	2020/12/7	上田 悠紀子	所属非公開希望	一般会員	事務局
3	2020/12/23	和田 博史	所属非公開希望	一般会員	事務局
4	2021/1/27	菊地 良幸	所属非公開希望	一般会員	事務局
5	2021/2/12	渡辺 研悟	所属非公開希望	一般会員	安彦忠彦
6	2021/2/25	千々布 敏弥	国立教育政策研究所	一般会員	倉本哲男

■退会者（2020年10月29日～2021年3月1日）0名

2. 寄贈図書一覧（2020年11月20日～2021年3月3日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
M.R.グレゴリー、J.ヘインズ、K.ムリス（編）、小玉重夫（監修）、豊田光世、田中伸、田端健人（訳者代表）	子どものための哲学教育ハンドブック：世界で広がる探究学習	東京大学出版会	2020/10/25	2020/11/24
西岡加名恵（編著）	高等学校 教科と探究の新しい学習評価：観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集	学事出版	2020/11/11	2020/12/2

H・リン・エリクソン、ロイス・A・ラニング、レイチェル・フレンチ（著）、遠藤みゆき、ベアード真理子（訳）	思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践：不確実な時代を生き抜く力	北大路書房	2020/9/20	2021/1/14
村川雅弘（編著）	with コロナ時代の新しい学校づくり：危機から学びを生み出す現場の知恵	ぎょうせい	2020/12/25	2021/1/14
宮野尚（著）	ウィネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程	風間書房	2021/1/31	2021/2/4
萩原真美（著）	占領下沖縄の学校教育	六花出版	2021/1/30	2021/2/10
松下佳代（著）	対話型論証による学びのデザイン：学校で身につけてほしいたった一つのこと	勁草書房	2021/2/20	2021/2/18
田中容子、西岡加名恵（著）	生徒が主人公になる高校英語の授業：パフォーマンス評価で、学び合う生徒たちを育てる	日本標準	2021/2/15	2021/2/24
斉藤仁一朗（著）	米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容：社会科の誕生をめぐる包摂と排除、両義性	風間書房	2021/2/20	2021/2/24
笹野恵理子（著）	学校音楽の「カリキュラム経験」：潜在的カリキュラムの生成過程	多賀出版	2021/2/20	2021/3/3

3. 会計途中報告（2020年4月1日～2021年3月1日）

収入の部

項目	予算額（円）	実績（円）
学会年会費	5,000,000	5,160,000
入会金	80,000	66,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	33,034
第31回大会収入(除く補助費)	0	0
寄付	0	0
前年度繰越金	5,925,622	5,925,622
合計	11,055,622	11,184,656

支出の部

項目	予算額（円）	実績（円）
第31回大会補助費	1,000,000	0
第31回大会支出(除く補助費)	0	169,400
第30号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	46,200
学会研究奨励賞費	0	0
会合費（交通費他）	1,300,000	0
事務局経費	150,000	37,062
事務局外部委託費	1,600,000	1,418,283
ホームページ委託運用費	250,000	205,700
財）日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	55,637
国際交流委員会	100,000	262
研究委員会	300,000	0
広報・若手育成委員会	300,000	82,654
(小計)	900,000	138,553
理事・代表選挙経費	300,000	353,117
予備費	200,000	0
次年度繰越金	4,595,622	8,756,341
合計	11,055,622	11,184,656

4. 令和2年度(2020年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2021年3月1日時点での2020年度会費の納入率は88.1%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度(2019年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>